

ゲーム自作 児童夢中

本社プログラミング教室に54人

小学生向けのプログラミング教室「はじめの一步」(福井新聞社主催)が22日、福井新聞社・風の森ホールであった。県内の小学4、6年生54人がプログラミングでゲームを作ったり、モーターを動かしたりして夢中になっていた。

11月に開く全国選抜小学生プログラミング県大会に

向けて企画した。県内のIT企業経営者らでつくるグループ「PCN」代表の松田優一さんが講師を務めた。子ども向けプログラミング専用パソコン「イチゴジャム」を開発した福野泰介さんも指導に当たった。児童たちは、イチゴジャムの小型版「いちごだけ」と、キーボードやモニターを

ひとまとめにした周辺機器「いちごだいふく」を使って

松田さん(右)の指導でプログラミングの基礎を学ぶ児童たち=22日、福井新聞社・風の森ホール



プログラミングに挑んだ。キーボード入力で主人公と

障害物を画面に表示させ、カーソルキーを操って障害物をよけるゲームを作ったり、モーターや光センサーをいちごだけにつないで指示通りに動かしたりした。本田湧大君(11)は兵庫小6年。文字を入力してゲームを作るのは初めてだったので、新しい体験ができて楽しかったと話していた。全国選抜小学生プログラミング県大会は、もっと好きになる。わたしたちのまちをテーマに、プログラミングを使ったアイデアを10月31

日まで募集している。問い合わせは福井新聞社営業企画局 ☎0776(57)5152。(小林真也)